

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2775801398 | | |
| 法人名 | 株式会社 メデカジャパン | | |
| 事業所名 | ひらのケアセンター そよ風(ひまわり) | | |
| 所在地 | 大阪市平野区長吉長原4-17-6 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年2月22日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年5月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.osaka-fine-kohyo- |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階 |
| 訪問調査日 | 平成23年3月28日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来ることは出来るだけ自分でしていただきできない方にはさり気なく援助させていただいている。職員の離職率も低いので、利用者との信頼関係も出来て毎日楽しく過ごされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の異動も少なく、引き続きの馴染みの関係が継続しているので利用者の表情にも落ち着きが見られる。1階のデイサービスを含めたセンター長と管理者、職員は当サービス評価を、年1回の介護サービスの振り返りの機会と捉えてくれており、前回のサービス評価で自分達が取上げた課題の反省もきっちりとされている。調査当日の、職員ヒヤリング場では、「家族さんに行事に参加していただけるには？」などの意見交換があり、改善に対する積極的な反応が感じられた。介護支援経過記録等は充実し、介護計画書の見直しにも有効に働いている。地域との交流については、地域の代表の思いに応えられるような取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域とともに発展の理念にもとずき地域行事に参加したりちいきのパン屋さんとの関わり等交流が広がっている。 | 理念に掲げている「地域とふれ合い、共に発展」を事業所内に掲示すると共に、全職員がそれに向けて真剣な取り組みをしている様子が窺える。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事や祭りに参加したり近所のスーパーやケーキ屋などへ一緒にお買い物に行っている | 事業所の行事を地域に知らせて、交流を深める努力を行って来た結果、少しずつではあるが、地域とのつながりが前進しつつある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議で地域の方々に説明などを行っている。そこで入居者様にも参加して頂き交流を図っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年からセンターから地域に出来ることを考え勉強会を開催する予定である。 | 運営推進会議に参加している地域の代表者からは、事業所の地域参加を強く求められているが、事業所としてありがたく受けとめている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 担当ケースワーカーさんに月一報告に行っている。 | 市の窓口担当とは利用者に関する相談や報告を行う関係が出来ており、協力関係も良好である。毎月ケースワーカーへの報告が行われている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修に参加して職員向け勉強会を行い理解を深めるようにしている。 | ユニットが2～3階にあるために、1階玄関は安全のために施錠しているが、拘束しているという状態ではない。職員は身体拘束の影響について内部研修等で理解ができています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修に参加して職員向け勉強会を行い理解を深めるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 利用されている入居者様もいるので担当者との連携を持つようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 改定の際は説明会を行い同意書をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年2回家族様と食事会などでご意見など頂いたり面会に来られた際個別に要望を着たりしている。玄関に意見箱を設置している。 | 家族の訪問時に個別の要望を聞いたり、相談をかけている。運営推進会議にも家族の参加が増えてきた事は、家族とのコミュニケーション作りにとって良い事である。。 | 家族が運営推進会議に参加してくれるようになってきているので、家族だけの時間を持つ事も検討されたら如何であろう。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 個々に聞く機会を設けている、その意見を反映できるように会社に発信している。 | 職員は役割を持って事業所の運営に参加している。1階のデイサービス事業所を含めた、全体の直員チーム枠が良好である。職員の異動がなく家族は安心である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況や努力、実績は把握している、介護福祉士やケアマネージャなどスキルアップを目指し研修に参加している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 社内、社外研修に多くのスタッフが参加できるようどのような研修があるか回覧で回し参加を心がけている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 月一回GH連絡会に参加しネットワーク作りをしている。問題事例の勉強会なども行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に実調へ行き聞き取りを行いスタッフが話し合いを行いケアプランに反映するようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 実調で聞き取りし家族様の意見・要望をお聞きしより良い関係が築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 実地調査で家族様本人様と面談し初期対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者様の得意なことや好きなことを把握しその力を活かせる場を作りスタッフと協力し行う。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 月一度そよ風だよりを発行し家族様に送っている。ケアプランが出来れば着ていただき話、説明をしお互いに本人様を支えるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者様とのコミュニケーションのなかでなじみの人や場を聞き把握する。又希望があればお手伝いするように努めている。 | 利用者が納得して新しい暮らしに入れるように、1階のデイサービスの利用などを含めて、家族と相談しながら、支援している。従来からの本人の生活パターンが途切れないように、知り合いとの関係も維持できるように努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握しておりコミュニケーションが円滑に行われるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院されて退去された方は面会などに行き家族様に本氏の状況を伺いできる限りアドバイスなど行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 思い、希望、意向を把握するように努めており利用者の思いをスタッフで話し合い共有している。 | 利用者の好きな事、得意な事、今までしてきた事などを家族や本人から聞き取って、職員間で話し合いながらケアの方法を考えている。フェースシートには生活歴や既往症などを出来る限り記録して共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 実地調査や以前利用されていたサービスの内容などケアマネが調べて把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 介護記録や申し送りなどでスタッフ全員が把握できるようにしている。又会話やしぐさで感じるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 一ヶ月に一度カンファレンスを行い話し合いをしている。それにより変更もしている。 | ケアカンファレンスを毎月開催して利用者の変化の状況を職員で話し合い、家族とも相談しながら必要な介護の課題を更新している。日々の記録では介護計画書の目標の実施状況をチェックするようにしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録は本人の言動やきずいた事、いつもと違ったことを記入するようにスタッフ同士申し送りを行う。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 1FがDSなのでDSで行われるリズムセラピー、歌体操等色々と参加していただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | スーパーやコンビニなど買い物に定期的に行き欲しいものなど選んで買われる時もある。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 二週間に一度往診に来ていただきスタッフからDrやナースにきずいたことを伝えたり相談したりしている。 | 家族や本人の希望を優先した診療体制を取っている。月に2回の往診の時には医師への状況説明をすると共に、医師からは生活での注意点や対応について指示を受けるようにして、症状の早期発見に努めている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | スタッフがきずいた事は全て伝えアドバイスを頂いている。24Hかかりつけの看護師に連絡が付き指示を頂ける状況である。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院にはサマリーを送り医療連携室の方と退院に向けての話し合いをしたりしてバックアップに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 会社の指針は出来ているがセンターでの方針がまだ決まっていない。 | 法人としての重度化対応指針は出来たが、事業所としての取組み体制の構築はこれからの段階である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 応急手当の講習に参加し更新しているスタッフもいるがすべてのスタッフではない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 入居者様を交えて避難訓練を行っている。 | スプリンクラーは前年度に設置が完了した。定期の消防訓練は消防署の指導を受けて年2回は実施している。利用者の訓練参加も行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | カンファレンス、会議など職員全体で話し合いを行っている、スタッフ同士注意できるようにしている。 | 職員によるやさしい声かけになっている。職員同士が気がついたときに言葉の掛け方に注意を合っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | おやつや食事等希望を聞き取り提供したりしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 希望に添えるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 行事や外出の際希望があればお化粧をすることがある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できる方には無理のないように準備や盛り付け食後の片づけをしていただいている。状況により刻みペースト食も提供している。 | ベースの食材は業者に手配しているが、刺身等の新鮮な食材は別の店から購入している。下ごしらえや片付けなどを利用者の残存能力に応じて参加を促している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | チェック表に記入し確認している。水分量、食事量の少ない方は好みの飲み物も食べ物を提供する。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている、夕食後は義歯を預かり消毒している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中介助の必要な方は誘導しといれでの排泄を基本としている。個々の排泄パターンを把握し声掛けを行っている。 | 排泄チェック表にて個人個人の排泄パターンを把握した上で、できるだけ自立した快適な排泄習慣が継続できるような支援を心掛けている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個人の排便周期を把握し食事や飲みものを工夫し自然排便をしていただくようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 時間がある程度決まっているので希望に添えていない場合もある。 | 入浴日程をあらかじめ決めて運用しているが、その限りではない。拒否があれば日程をずらして、気分良く入浴してもらえるように努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 眠たくなれば居室に戻られ仮眠する方もいる。その際空調などもきをつけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬手帳やケースに目を通し把握するようにしている。誤薬がないように三重チェックをしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方にあつた役割を持っていただくようにしている。好きなものを把握するようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に添えるひは散歩や買い物へでかける出来るだけ外出の機会をふやし外の空気を吸って気分転換をしていただく。 | 普段の散歩だけでなく、買物なども含めて、できるだけ外の空気に触れるように心掛けている。桜や紅葉などの季節の外出行事を計画して気分転換を図っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的には紛失防止の為事務所預かりである。希望に応じて家族様と相談しお金を所持されている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙などできる方はお手伝いさせて頂いている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには季節の花を飾り壁画も工夫している。 | ビルの中なので、施設っぽくならないように工夫された空間となっている。観葉植物などを使い演出されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのソファで寛がれたりテレビを見たり思い思いに過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具や寝具は使い慣れたものを持ち込まれている方もいる。 | 居室は明るく清潔に保たれている。本人が家で使っていた馴染みの家具や備品が持ち込まれて、自分の居場所としての居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレには解りやすく大きな字で書いてあり廊下には手すりが着いていて安全に考慮している。 | | |